

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「自立した社会人」の育成をめざす。

そのため、夜間定時制、工科高校総合学科及び地域の特性を生かして、

1. ものづくりを核に据えて基本的な知識・技能の定着を図りつつ、資格取得等に挑戦させて、自己実現へと導く。
2. 「働きながら学ぶ」ことを大切にして、基本的な生活習慣・社会規範の確立と自らの進路決定に前向きに取り組む態度を育てる。
3. 地域と連携し、地域の教育力を最大限に生かした教育活動を通して、社会の中で生きる自信・豊かな心を養う。

## 2 中期的目標

## 1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成

(1) 「わかる授業」による基礎学力の育成をめざす。

ア. 授業改善、公開授業・研究授業等の取組みを推進する。

(※自己診断：「授業はわかりやすくて楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」 H25[60%台後半]→H29[80%]維持)

(※授業評価：「興味・関心をもてた」「知識・技能が身についた」 H25[70%]→H29[80%超]維持)

イ. 技能講習や検定等を活用した学習意欲の向上を図る。(※H29には溶接及び第二種電気工事士延べ合格者数 25 名維持 (H26[16 名])

(2) キャリア教育の推進

ア. 「働きながら学ぶ」ことを通して学校生活や社会生活への適応を図る。

ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と連携し、未就労者ゼロをめざす。

将来の職業生活を意識させ、基本的な生活習慣・態度を身に付けさせる。

(※進級・卒業率：H25[70%]→H29[80%超]を維持)

イ. 地域企業等と連携した「ワーキングスペース」を活用したキャリア教育プログラムの推進

アルバイト等に就けない生徒への就労体験を行う。※当該生徒の 100%をめざして継続する。

地域、企業、大学等と連携した「ゆめ・チャレ」等の就労体験活動(共同製作、町のイベント企画・参加等)を継続する。

(※アルバイト等の就労体験率：H29[全生徒の 95%以上]、学校斡旋就職率：H29[就職希望者の 90%]を維持する。)

ウ. 挨拶の励行や人権教育の推進により、円滑な人間関係を構築する力の育成を図る。

## 2 生徒理解の促進と自尊感情を高める取組みの強化

(1) 生徒の活動や学習成果等の情報発信の強化

ア. 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携活動の継続・発展をめざす。

(※各種発表会、イベント等への参加・出展数：継続・発展)

イ. 部活動の充実。

ウ. ホームページ等のさらなる充実。

(2) 生徒支援委員会を機能させる

ア. 人権・教育相談・保健室等の連携を強化して、生徒の特性に応じた的確な学習指導・生徒指導を進める。

(※自己診断：「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」 H25[50%]→H29[75%超])

イ. 生徒理解のための教員研修を充実させる。

## 3 学校全体の教育力の向上

OJTを通じて、学校全体の指導力の向上、次世代の教員の育成をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は「基礎学力をつける」ことに重点をおいて授業に取り組んだ。教員向けは、教育活動について「日常的に話し合っている」教員の数が30%上昇した。(昨年は66%) また、「教え方を工夫している」教員が昨年度に引き続き100%、「楽しくわかりやすい授業」を進めている教員も増加し100%となった。しかし、生徒にとって、「教え方を工夫している」、「わかりやすい授業」をしている教員は、60% (昨年55%) とかなりの差がある。工夫の仕方が生徒のニーズにあっていないこと等が考えられ、生徒のニーズを把握しギャップを埋めていくことが今後の課題である。</li> <li>ビデオ、スライドなどの視聴覚教材を有効に活用している教員がいる。今後、その有効性を周知させるためにプロジェクターなどICT機器を使った公開授業を展開していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【生徒指導など】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「気軽に相談することできる先生がいる」が58%にとどまった。先生に相談する必要がない生徒が、否定的な回答をした可能性もあり、分析が難しい。支援教育委員会を中心に生徒一人ひとりが抱える課題を絶えずチェックし、定期的に連絡会などで教員にその情報を共有するシステムができあがりつつあるが、それと同時に教員全体のカウンセリングマインドを向上させていく体制づくりが必要である。</li> <li>人権や進路指導については、肯定的な意見が70%という一定の評価を生徒から得ることができた。日々、積極的に取り組んだことへの評価であると考えられる。保護者に関しては、進路指導については学校と家庭の連携に対する肯定感は、昨年度に続き、100%の理解を示していただくことができた。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活についての先生の指導は理解できる」72% (昨年61%) 生徒と教員の人間関係を構築することから指導が始まる意識が数字に表れた。</li> <li>地震や災害が起きた場合、どのような行動をとればよいかの認識度合が生徒、保護者においてポイントが下がっている。避難訓練の見直しを行う必要がある。</li> </ul> <p><b>【地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>堺の伝統地場産業である包丁や線香づくりの選択授業があり、地域の伝統工芸士を講師として招いて、生徒は綿々引き継がれてきた技術を学んでいる。生徒が作成した包丁や線香を東日本大震災の被災地に届けたり、地元の商店街で小学生に「仕事体験」を企画するなど地域と密に連携したイベントを行ってきた。地域に理解され、愛される堺工科高校になりつつあるが、今後人口減少期に入り、入学者数の減少、教員定数の削減、地域連携に携わってきたベテラン教員の退職、地域連携に係る予算の削減などにより、明るい展望がなかなか見えにくい。教員78%(昨年78%)、生徒53%(昨年56%)、保護者70%(昨年80%超)、地域住民すべてにおいて地域連携の必要性を理解していただき、今後も発展を推進していく方法を考えなければならない。</li> </ul>	<p><b>【第1回学校協議会 6月30日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の存続 <ul style="list-style-type: none"> <li>新入生の入学者数が安定せず、再編整備がどのように行われるのか不安である。地域に必要な学校としての認識度をあげるために、「堺学」にしろ、東北支援にしろ、外部にアピールできる材料を揃えることが肝要である。</li> </ul> </li> <li>○支援体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>自尊感情の乏しい生徒が増えつつあり、一人ひとりの生徒の居場所があるような支援体制を整備してほしい。</li> </ul> </li> <li>○部活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会への出場は他の生徒にも励みになり、礼儀礼節を学ぶこともできることからクラブ活動の活性化を維持してほしい。</li> </ul> </li> <li>○情報リテラシーの育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>ネット上の書き込みやネット絡みのトラブルをよく耳にする。うまく使えば、実用的なツールなので正しい使い方や情報リテラシーをHR等で生徒に伝えてほしい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【第2回学校協議会 10月23日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>体験入学の内容については、もっと丁寧な事前説明を中学校に行う必要がある。</li> <li>今回で4回目をむかえる「夢・チャレ(子ども仕事体験)」など地域と連携したイベントについて、積極的に報道機関に報道提供をすべきである。</li> <li>成績表や出席状況の見方などをもっと丁寧に説明してほしい。</li> </ul> </li> <li>○食育の観点からみた健やかな体の育み <ul style="list-style-type: none"> <li>教員と一緒に食べる給食の時間は、生徒とのコミュニケーションの場となっていてよい雰囲気であった。今後も喫食率をさらに向上させこういった時間を大切にほしい。</li> </ul> </li> <li>○安全安心な学びの場 <ul style="list-style-type: none"> <li>自転車の事故が増加傾向にある。自転車通学者の賠償保険加入の強制は難しいが、加害者になったり被害者になったりするリスクを説明して、加入を促してほしい。</li> </ul> </li> <li>○教員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>「堺学」でも実践しているに、一步一步積み上げていくことが非常に大切である。それが通常の教育にも反映されればお互いウインウインの世界が続く。</li> <li>「ものづくり」から「ひとづくり」ができる教育を実践してもらいたい。</li> <li>授業アンケートはあくまでも子どもの受け止めとして参考にした上で、管理職がしっかり精査し、授業改善につなげてほしい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【第3回学校協議会 2月19日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「堺学」 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は「堺学」など現場の世界に入ると顔つきがかわり、任せられるとがんばる。</li> <li>「ものづくり」を通じて、「人づくり」の援助ができて誇りに思っている。</li> <li>「ゆめ・チャレ」においては、4回目を迎え、小学生の参加数が1回目の50名から4倍の200名を超え、体験数も40を超えている。地域の小学校では、恒例の行事として認知されており、小学生から熱い期待が寄せられている。</li> <li>「ゆめ・チャレ」に参加していない生徒への働きかけができればいい。</li> </ul> </li> <li>○外から見た学校の様子 <ul style="list-style-type: none"> <li>数年、協議員をやっているが、徐々に学校のイメージがよくなっている。教員が定期的に見回っている。地域からの苦情も入ってこない。</li> <li>堺工科に送り出した生徒が、DVDの中で、包丁を真剣に作っている姿を見て感動した。保護者からも子供が堺工科でがんばっていることを聞いている。</li> </ul> </li> <li>○学校教育自己診断について <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの回収率が芳しくない。もう少し工夫があつては。</li> </ul> </li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成	<p>(1) 「わかる授業」による基礎学力の育成をめざす。</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>ア. 全ての教科で、生徒の学習習熟度や特性に応じた「わかる・できる授業」、学びのユニバーサルデザインを研究して実践する。</p> <p>イ. 技能講習等の資格取得を積極的に勧め、学習意欲の向上を図る。</p> <p>ア. 職場見学、職業体験、ハローワークへの付添等を通じて、「働くこと」を体験させ、「働きながら学ぶ」ことを通して学校生活や社会生活への適応を図る。</p> <p>イ. 地域企業等と連携して、「ワーキングスペース (WS)」を活用した職業実習や小学生仕事体験「ゆめ・チャレ」を推進し、生徒の自己有用感、勤労観、コミュニケーション能力を高め、進路実現を支援する。</p> <p>ウ. 全教職員による登下校時の挨拶・通学指導の実施、校内・学校周辺の環境美化を徹底して、基本的な生活習慣、落ち着いた学習環境を作る。</p> <p>エ. 保護者や生徒支援委員会等との連携を密にして、出席率、進級・卒業率の向上、進路実現を図る。</p>	<p>ア. 授業アンケートの「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」で75% (H26:70%) 校内研修・公開授業等の実施</p> <p>イ. 資格取得 10名程度</p> <p>ア. アルバイト等の経験者数、1, 2年生でアルバイト等就労体験率90%超 (H26:90%)</p> <p>イ. 未就労生徒の90%参加をめざす。生徒アンケートの「自己肯定感」「前に踏み出す力」を実施前比20%アップをめざす。(H26:15%) 学校斡旋就職希望者の就職率100%をめざす (H26:100%)</p> <p>ウ. 日常の観察による挨拶や環境美化等の徹底具合。</p> <p>エ. 1年生進級率60%以上、学校全体の進級・卒業率70%を維持し、向上をめざす。(H26:1年生65%、全体74%)</p>	<p>ア. 授業アンケートの「興味・関心がもてた」は77%、「知識・技能が身に付いた」は77.2%で達成できた。また、公開授業週間を年2回設け、初任者を含む9名の教員が行い、研究協議では授業改善について活発な意見交換ができた。(○)</p> <p>イ. 資格については、電気3名、溶接5名が取得した。(△)</p> <p>ア. 基本的な生活週間の確立と「働くこと」の意義を体感させるために4月上旬からアルバイト等の就労体験を促し9月段階で93%に達した。(○)</p> <p>イ. 未就労生徒のほとんどが「ワーキングスペース」を活用した。「ゆめ・チャレ」参加生徒も昨年より増加し、自己有用感を持たせることができた。学校斡旋就職希望者の就職率は100%を達成(○)</p> <p>ウ. 生徒の登校時に正門で挨拶登校マナー指導や給食指導を複数の教員を割り当てて毎日行い、生徒の様子をチェックした。また学校周辺の美化活動も生徒会などボランティアを募って行い、近隣からの苦情は激減した。挨拶については徹底できなかった。(△)</p> <p>エ. 1年生進級率は63.3%、学校全体の進級・卒業率は、73.7%となり当初の目標を達成(○)</p>
2 生徒理解と自尊感情を高める取組みの強化	<p>(1) 生徒の活動や学習成果等の情報発信の強化</p> <p>(2) 生徒支援委員会を核とした教育活動の推進</p>	<p>ア. 授業や課外活動の成果を秋季発表大会、大阪府産業教育フェア、学校説明会・体験入学等の機会を活用して発信する。さらに、教育活動の成果や進路等の情報を学校ホームページで積極的に発信する。</p> <p>イ. 自尊感情や自校愛を高めるため、生徒会活動・部活動・地域貢献・東北支援等の活動を維持・充実させる。</p> <p>ア. 高校生活支援カード等の情報を活用し、生徒支援委員会と教科担当者会議等が情報共有しながら指導・支援方針の摺合せを行う。</p> <p>イ. 専門家と連携して、生徒理解やソーシャルスキルトレーニング、学びのユニバーサルデザイン等についての職員研修を行い、実践への導入を図る。</p>	<p>ア. 地域の評判。表彰等の件数5件。</p> <p>イ. 入部者数年間50%及び大会等への参加5回以上を維持。</p> <p>ア. 学期毎の定例化、実践への反映状況及び進級・卒業率。</p> <p>イ. 校内研修3回程度、授業等の取組状況。</p>	<p>ア. ソフトテニス部、柔道部が定通全国大会出場 秋季発表大会生活体験発表の部において大阪府教育委員会賞、作品(包丁、線香)発表の部において奨励賞 堺市研究・ボランティア活動部が第19回ボランティアスピリット賞全国大会奨励賞 大阪府学生科学賞受賞(◎)</p> <p>イ. 各種大会への参加は5回を超えたが、入部率は41%にとどまった。(△)</p> <p>ア. 生徒の情報交換会年4回、SCを交えた支援委員会10回(ケース会議を含む)、サポートステーションとの情報交換会(1年対象)3回、臨床心理士によるカウンセリング及び気になる生徒の情報交換(◎)</p> <p>イ. 人権に関する授業を各学年2回程度実施 1年SNS、2年障がい者スポーツ、3年社用紙と統一応募用紙など SCによる教員研修、堺市人権推進課主催の研修に参加 サポステによる気になる生徒がいる授業への入り込み(○)</p>
3 学校全体の教育力の向上	OJTと外部評価の活用。	上記の新たな教育活動や校内研修を通じて、学校全体の指導力の向上、次世代の教員の育成をめざす。	取組みに対する学校協議会や関係者の外部評価(肯定70%以上)	学校協議会において、表彰件数の増加、「堺学」を軸とした地域連携、生徒一人ひとりを大切にする支援教育の推進などの取組みに対して非常に肯定的な評価をいただいた。(○)